

累積記録を用いたスケジュールの自己管理行動の表現

Illustrating self-management of schedule keeping by cumulative records

○尾西洋平・中鹿直樹・林 炫廷・太田隆士・乾 明紀・望月 昭

○ONISHI Yohei, NAKASHIKA Naoki, LIM Hyunjung, OTA Takashi, INUI Akinori, MOCHIZUKI Akira
立命館大学

Ritsumeikan University

Key words: cumulative records, self-management, schedule keeping

我々はどのようにして自らスケジュール管理をしているのであろうか。行動分析学の枠組みでは、行動の先行事象と後続事象により、当該行動が将来変化すると考える。また、行動の後続事象が次の行動の先行事象となることを行動連鎖という。スケジュール管理も同様であり、行動連鎖で表現できる。また、視覚的に即時の行動変化を捉えることが重要である (Fahmie et al., 2008)。

そして、時間とともに行動の変化を表現する手段として累積記録がある。累積記録は、生活体の反応を測定し反応の出現頻度 (反応率) を表現するために使用される (Skinner, 1938)。累積記録は対象者の反応の変化を視覚的にとらえることができ、横軸が一定で反応率が高いときにはグラフの勾配が急になり、反応率が低いときにはグラフの勾配は緩くなり、時間軸にそった変化の判断を容易にする。さらに、これまで対象者の「できる」を表現するための書式の検討も行われている (林, 2011)。

検討方法

A さん (特別支援学校生徒) と B さん (就労移行支援施設利用者) を対象者とした実習事例での、ある日のスケジュールの自己管理行動を累積記録で表現した。場面は C 大学内の模擬喫茶店舗であり、実習内で商品の配達・回収業務を行った。そこで自ら記述できるスケジュール表が用いられた。A さんと B さんともに手がかりとして使用できたのは、スケジュール表、配達伝票 (配達時間・場所・商品が記述されている)、腕時計であり、B さんは置き時計も手がかりとすることができた。なお、それらはいつでも使用することができた。

結果と考察

A さんでは、はじめに言語指示が入ったが、その後減少し、時間とともに自発的にスケジュール表や腕時計を見る行動が多く生起し (反応率の上昇)、業務を行っている (図 1)。また、B さんも同様に置き時計や腕時計を確認する行動が自発的に多く生起している。ただし、A さんとは対照的にスケジュール表を確認するよりも時計を見る行動が多いことがわかる (図 2)。

このように、どのような行動を行ったのかを、他者からの言語指示を併せて累積記録で表現することにより、対象者のセルフ・マネジメントが表現できる。このような表現は、対象者の関係者に対して、対象者の「できる」を表現する手段としてだけではなく、支援者に対しても、

支援が成功しているか否かの判断に有効である。これは「援護」活動の非常に重要な道具となり得る。

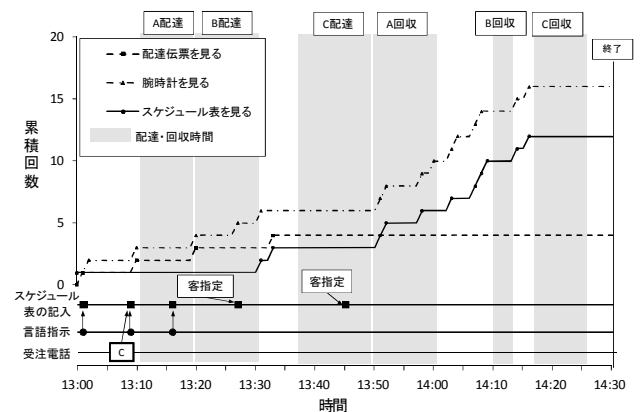


図1 Aさんの配達・回収業務の自己管理行動に関する累積記録

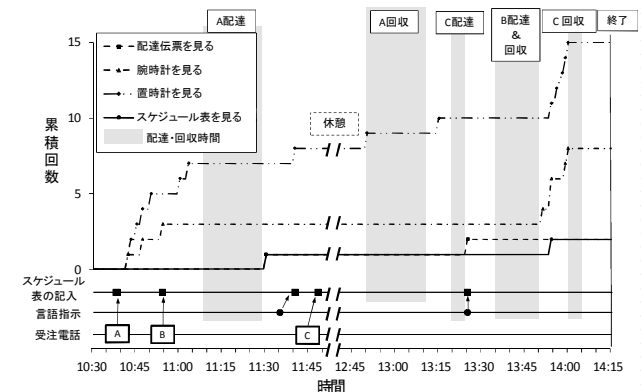


図2 Bさんの配達・回収業務の自己管理行動に関する累積記録

引用文献

- Fahmie, T. A. et al. (2008). Progressing toward data intimacy: A review of within-session data analysis. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 41, 319-331.
- 林炫廷ら. (2011). 障害のある人への継続的な就労支援を行うための「できること」についての情報構築—別支援学校の教員と保護者の連携の下での「できますシート」の書式の検討—対人援助学会第3回大会発表論文集.
- Skinner, B. F. (1938). *The behavior of organism: An experimental analysis*. New York: Prentice-Hall.